

ふるさと Something NEWS

第②回

地域紙をツールとした「ふるさと快活」

——新橋まちなか大学院の取り組み

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤 建吉

▼参勤交代制度

江戸時代、徳川家光の治世から制度化されたという「参勤交代」は、徳川幕府の中央集権政治制度であり、230年以上にわたる安定を導いたとしても過言ではない。

江門時代、徳川家光の治世から制度化されたという「参勤交代」は、徳川幕府の中央集権政治制度であり、230年以上にわたる安定を導いたとしても過言ではない。

全国の大名の江戸での1年の滞在、その後1年は国元で過ごすという繰り返し、江戸の文化と経済を地方に広める役割とともに、街道整備や宿場整備など内需経済を拡大した。地方大名の経済負担は、それが幕府の目的でもあったが、藩財政の半分以上ともなったという。

明治維新で江戸が東京になっても、第2次世界大戦の敗戦でGHQの占領になっても、さらに2011年の3・11の東北大地震によっても、東京中心の国内情勢は変わらず、ますます拡大している。

しかし、地域に住む多くの人がコンピュータやアンドロイド端末を携えているのでもない。また、電源が必須であるがそれがあるとは限らない。また、電子ファイルの作成や表示などの基準(プロトコルや規格等)が経年変化する。そういう局面や影響により、紙ベースの情報はまだまだ有力である。

地域紙はその名前のように、紙ベースの地域新聞ではあるが、地域の話やニュース、そして文化の紐解きなどを地域情報として提供する役割を担ってきたが、電子ファイルやメディアによる保存や管理に転換されれば、便利で快適な活用が見込まれる。

▼新橋まちなか大学院

2月1日に、本法人事務所のある新橋駅前、国際善隣会館5階会議室で、「新橋まちなか大学院」がスタートした。

「地域紙で「ふるさと快活」をめざす」をテーマとした。全国で100紙をこえる地域紙をツールとして、地域紙の地元がふるさとである東京在住者と、ふるさと地域の関わりを深め、ふるさとを地域を元気にすることを

①地域活性化や地方創成という言葉は聞き慣れたので、「ふるさと快活」という呼び方で新しく具体化する。

②地域紙をメディアツールとして、ふるさとを東京の人に伝える。

③その情報とともに、ふるさとの食材や日本酒をメインに据えた居酒屋・料理店・カフェ等を「ふるさと地域紙バー」を「ふるさと地域紙バー」と名付け、飲食

④そこでは、ひと・もの・こと・かね等の、ふるさとビジネスの発信拠点とすることもできる。

また若い人の参加には、ふるさと出身の大学生や地元の高校生の協力、また地方の大学の都内のサテライトオフィス、ふるさと帰郷支援センター、さらに県人会、

と地域紙「バー」を、如何にデザインするかを、その店長らに来て頂き意見交換する。

なお、この情報は、(一社)洗楓座のサイトで情報提供と情報収集がなされる。

▼地域情報を発信する地域紙

こうしてみると、東京一極集中は変わりようのない日本の特質であるようにも思われるが、出来るだけ緩和したり、あるいは別の対策や考えをも

全国の地方紙を広げて課題についての議論



⑤そのバーは、ふるさとと関係のある人、ふるさと出身の大学生や地元の高校生の協力、また地方の大学の都内のサテライトオフィス、ふるさと帰郷支援センター、さらに県人会、